

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

摂食障害の診断と治療 ガイドライン 2005

厚生労働省精神・神経疾患研究委託費による「摂食障害の治療ガイドライン作成とその実証的研究」班

マイライフ社、2005年1月

■1 温経湯

疾患:

無月経

引用など:

後山尚久, 坪倉省吾, 植木実, ほか. 第2度無月経への温経湯ーメサルモン-F 併用療法時の内分泌変動. *日本不妊学会雑誌* 1994; 39: 144-8.

有効性に関する記載ないしその要約:

摂食障害と無月経: 無月経の治療の項に、下記の記載がある。

『妊娠希望の場合は第1度無月経にはクロミフェン療法を第一選択とします。3周期反復投与して排卵なき場合は中止とし、第2度無月経とともにゴナトロピン療法 (FSH-hCG あるいは hMG-hCG 療法) を行います。他に GnRH 律動療法・隔日投与方法や温経湯などの漢方療法も有効と考えられます。温経湯はラットの実験で視床下部に作用して LH-RH の放出を促進し、ヒト排卵障害例では LH 律動性分泌を賦活させます。臨床試験成績では、無排卵周期症で 69%、第1度無月経で 44~62%、第2度無月経で 17~24% の排卵誘発効果があり、温経湯とクロミフェン、温経湯とメサルモン併用療法も有効とされます。』

■2 芍薬甘草湯

疾患:

薬剤性高プロラクチン (PRL) 血症

引用など:

福島峰子, 成田章子, 一関和子, ほか. 高プロラクチン血症を伴う排卵障害に対する芍薬甘草湯の効果. *和漢医薬学会誌* 1986; 3: 227-30.

有効性に関する記載ないしその要約:

摂食障害と無月経: 無月経の治療の項に、下記の記載がある。

『薬剤性高プロラクチン (PRL) 血症に対し芍薬甘草湯の PRL 低下作用も証明されており、摂食障害の高 PRL 症例の無月経に対しては選択肢の 1 つと考えられます。』

■3 漢方薬

疾患:

摂食障害

有効性に関する記載ないしその要約:

『平成 13 年度厚生労働省摂食障害研究班での筆者が行った CAM の実態調査結果では、アンケート調査をした 50 名の摂食障害患者のうち 44%が何らかの CAM を試みた経験があり、その目的としてはリラクゼーションが最も多く挙げられていました。種類としてはアロマセラピーと指圧あんまマッサージが最も多く、続いて健康食品、漢方薬、鍼灸の順でした。』